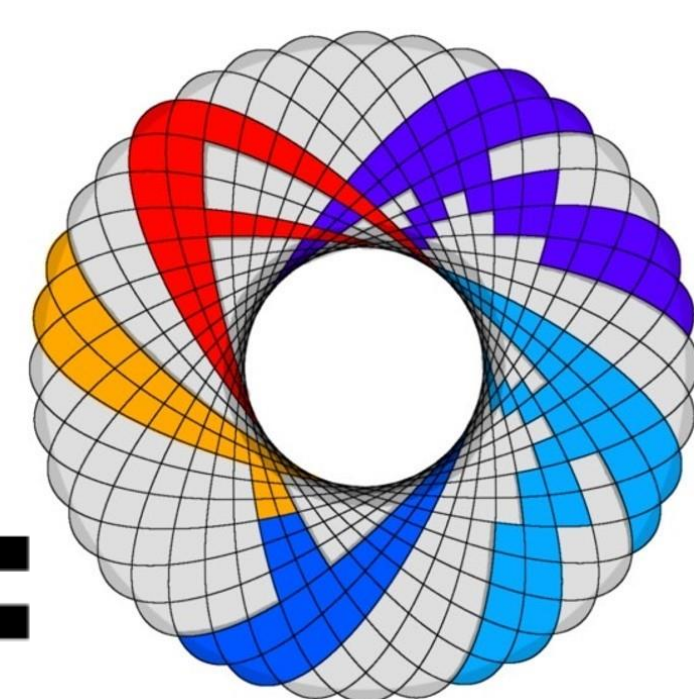


# ミライケータイプロジェクト FUTURE MOBILE PHONE PROJECT 2023



- 未来大 : 嘉数太陽, 館山龍之介, 菊池克典, 三上拓寛, 石原正翔, 川野順慶, 目黒蒼天斗, 留目健太
- 神奈工大 : 松尾空, 神山修摩, 青池大樹, 青木翔, 川口大夢, 藤田真永, 武居なつみ, 藏方聖唯, 伊藤冴常
- 法政大 : 金子稜, 佐野洋明, 斎藤尊, 斎藤陽, 室井彪雅, 石川陽, 川村優佳
- 京都橘大 : 吉永智哉, 戸嶋海斗, 榎原清士郎, 三ツ星航太, 山口慶大, 大石耕生, 竹内佑奈, 中井修斗, 木村遥敬

## ミライケータイプロジェクトとは

### About Future Mobile Phone Project



本プロジェクトは、はこだて未来大学、法政大学、神奈川工科大学、京都橘大学の4大学合同による**"ミライ性"のあるサービスを創る**プロジェクトである。サービスの企画、アプリケーションの機能の開発、ビジネスモデルの設計を行った。今年度は、33名のメンバーで「SOMETAROKA」、「TriCaPic」、「Vand」の3サービスを開発した。

Future University Hakodate, Hosei University, Kanagawa Institute of Technology and Kyoto Tachibana University join to this project. We cooperate and create services that have "Mirai-Sei". We thought the contents of services, developed the applications and considered business methods.

## 開発サービス Our Products



**SOMETAROKA**  
あなたの言葉を  
SOMETAROKA



**TriCaPic**  
そこにある思い出を  
ずっと大切に

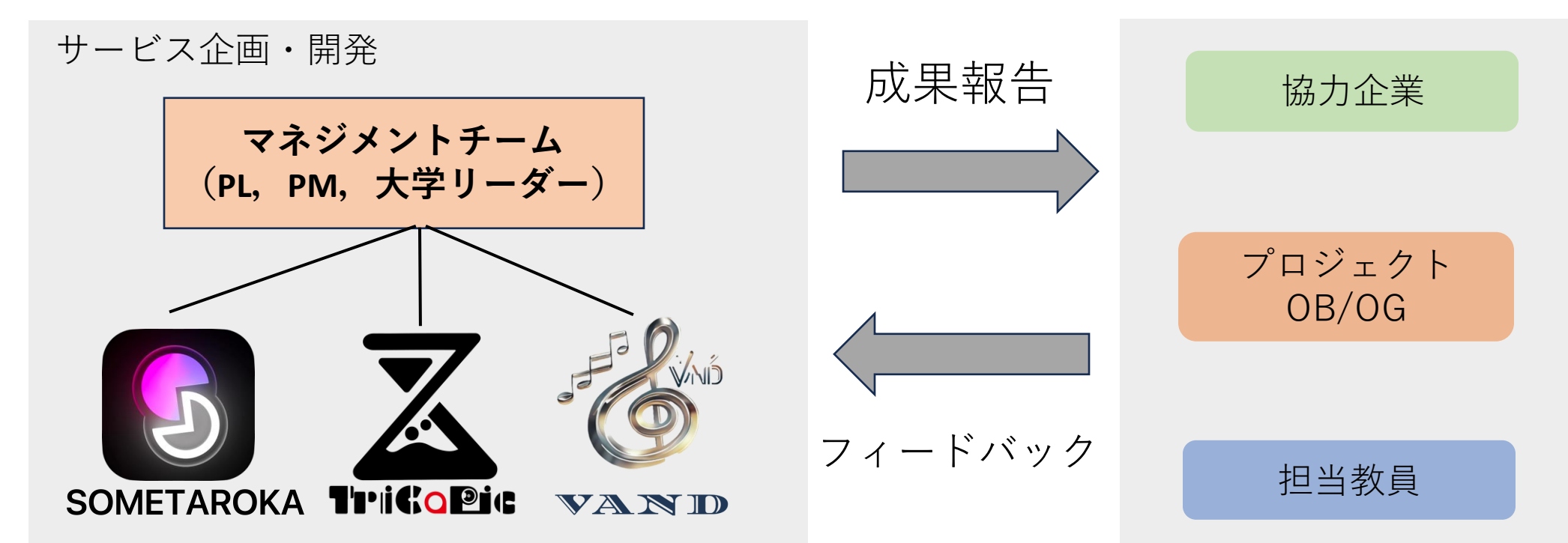


**VAND**  
仮想空間で  
最高の音楽体験を

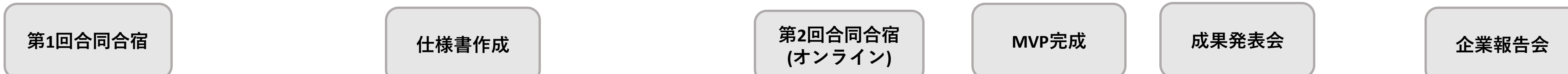
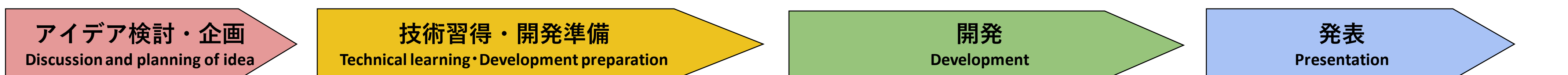
## プロジェクト体制 Project Organization

今年度は未来大8名、神奈工9名、京都橘9名、法政大7名、の計33名で活動している。大学リーダーとそれを兼任した**複数人のPL, PMで全体のマネジメント**を担当し、3つの開発チームが活動するという組織体制となっている。また、合同合宿でアドバイスをいただくなど**協力企業やプロジェクトのOB・OGの方々と連携**しながら活動した。

This year, a total of 33 members (8 from Future University, 9 from Kanagawa Institute of Technology, 9 from Kyoto Tachibana University, and 7 from Hosei University) are working on the project. The university leaders who also serve as PL and PM are in charge of overall management, and three development teams are active in this organizational structure. The project team also work in cooperation with partner companies and project alumni, who provided advice at joint camps.



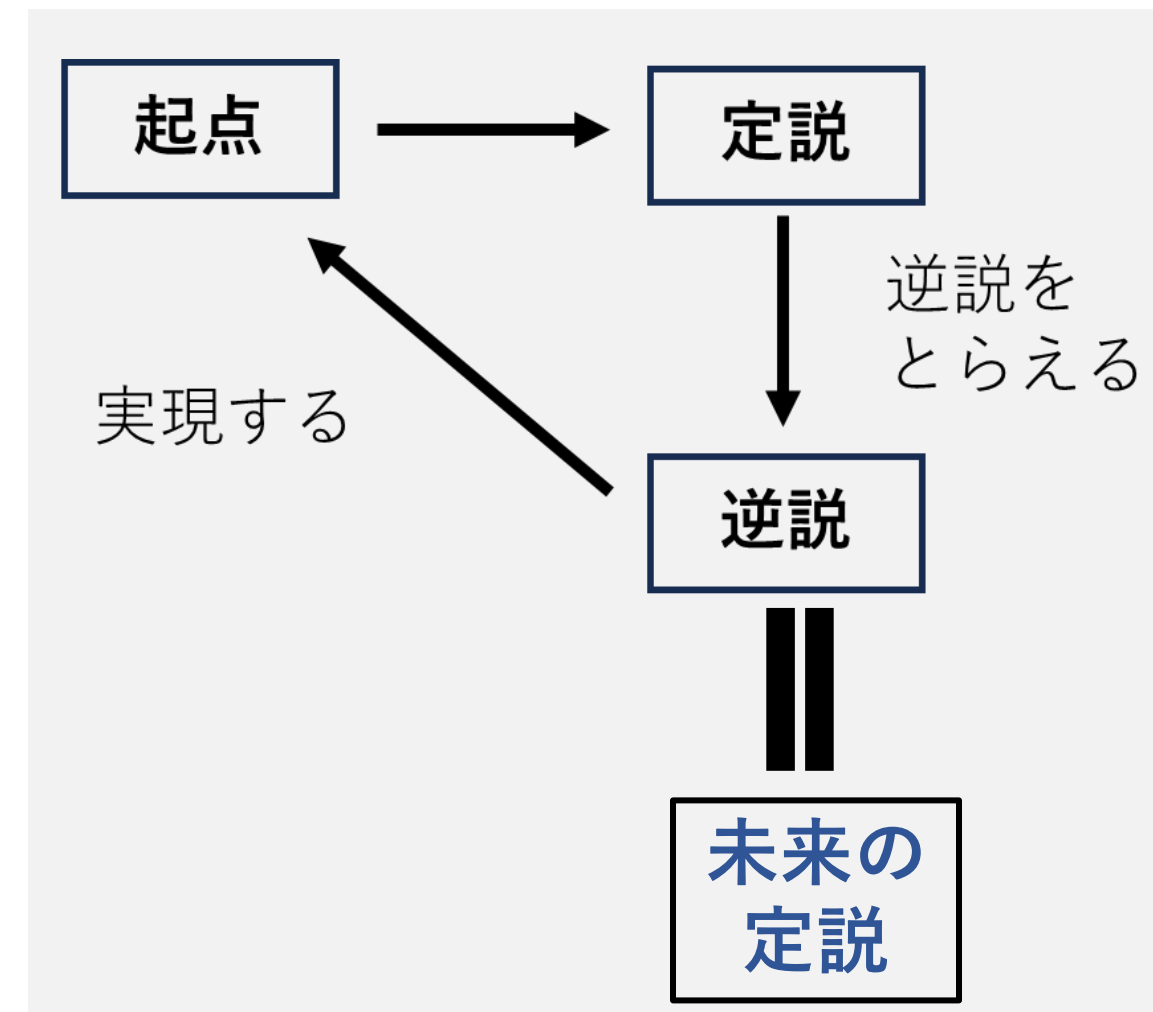
## スケジュール Scheduel



## ミライ性 Future Property

ミライ性は**未来の定説を創り出す**ことを意味する。未来の定説とは、新たな常識のことである。現在の定説に対する逆説が未来の定説なり得ることから、この逆説を実現する機能をコンセプトとしたサービスの開発を行った。

Future property means the creation of future hypothesis. A future hypothesis is a new common sense. Since a paradox to the current hypothesis can be a future hypothesis, we have developed a service based on the concept of a function that realizes this paradox.



## 合同合宿 Joint Camp

### 第1回合同合宿 First Joint Camp

第1回合同合宿では、各大学で持ち寄ったサービスのアイデアの発表とブラッシュアップを行った。協力企業、OB・OGからサービスのアイデアに対してだけではなく、プロジェクトを進めるうえでのアドバイスを頂く機会となった。また、他大学のメンバーと対面で議論を行うことができ、学生同士の親睦を深めることができた。

At the first joint camp, we presented and refined service ideas brought in by each university. This provided an opportunity not only to receive feedback on service ideas from collaborating companies and alumni but also to seek advice on advancing the project. Additionally, engaging in face-to-face discussions with members from other universities allowed for meaningful debates and strengthened camaraderie among students.

### 第2回合同合宿 Second Joint Camp

第2回合同合宿では、協力企業、OB・OGへプロジェクトの進捗状況を報告するとともに、抱えている問題点についてアドバイスを頂いた。開発の期限が迫っていることを実感し、MVPの見直しとマスタスケジュールの更新を行った。

At the second joint camp, we reported the progress of the project to collaborating companies and alumni, seeking advice on the challenges we were facing. Recognizing the approaching deadline for development, we revisited the Minimum Viable Product (MVP) and updated the master schedule.







# SOMETAROKA

あなたの言葉をSOMETAROKA

●未来大 : 嘉数太陽, 目黒蒼天斗, 留目健太

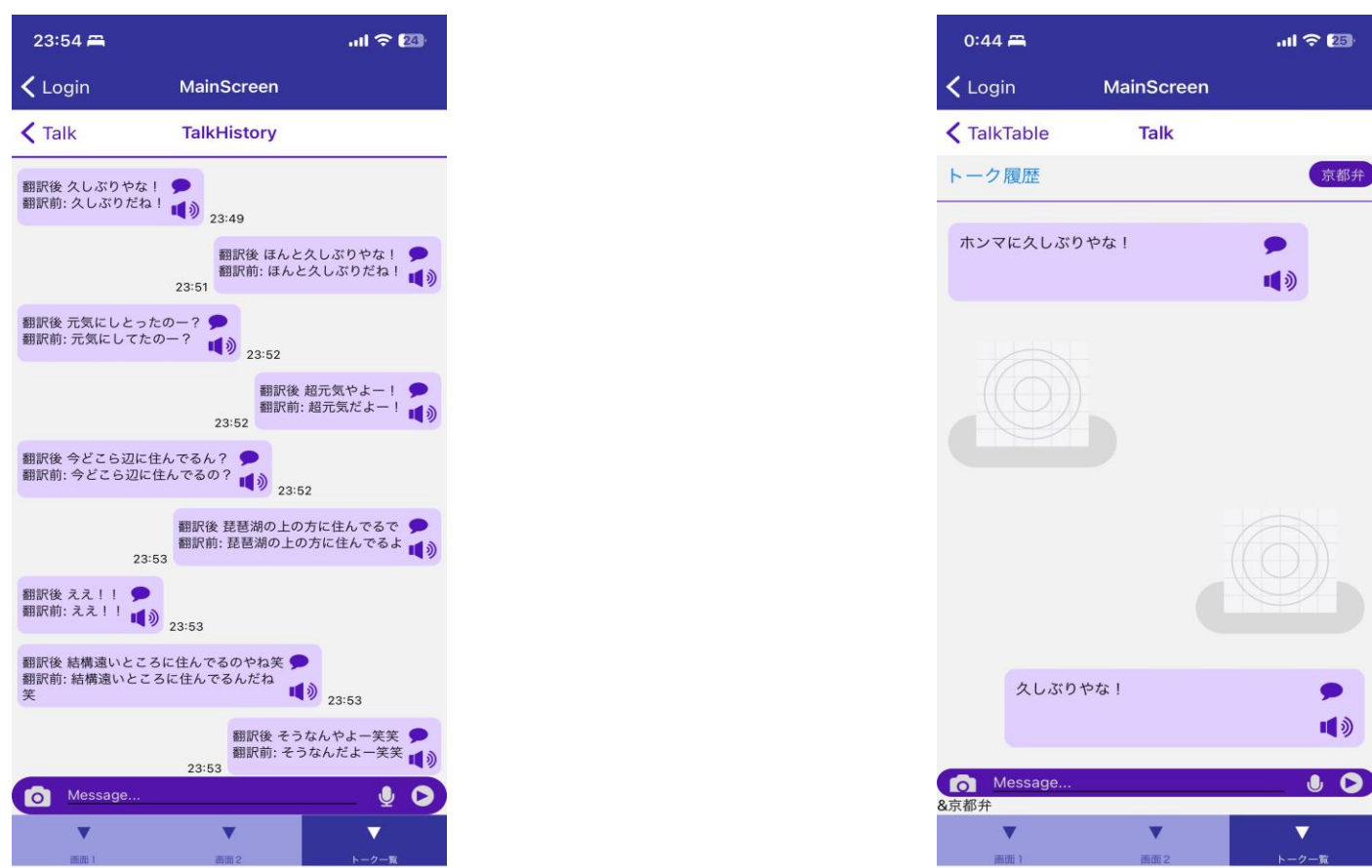
●神奈工大: 松尾空, 青木翔

●法政大 : 金子稜, 佐野洋明

●京都橘大: 山口慶大, 大石耕生, 中井修斗, 木村遥敬

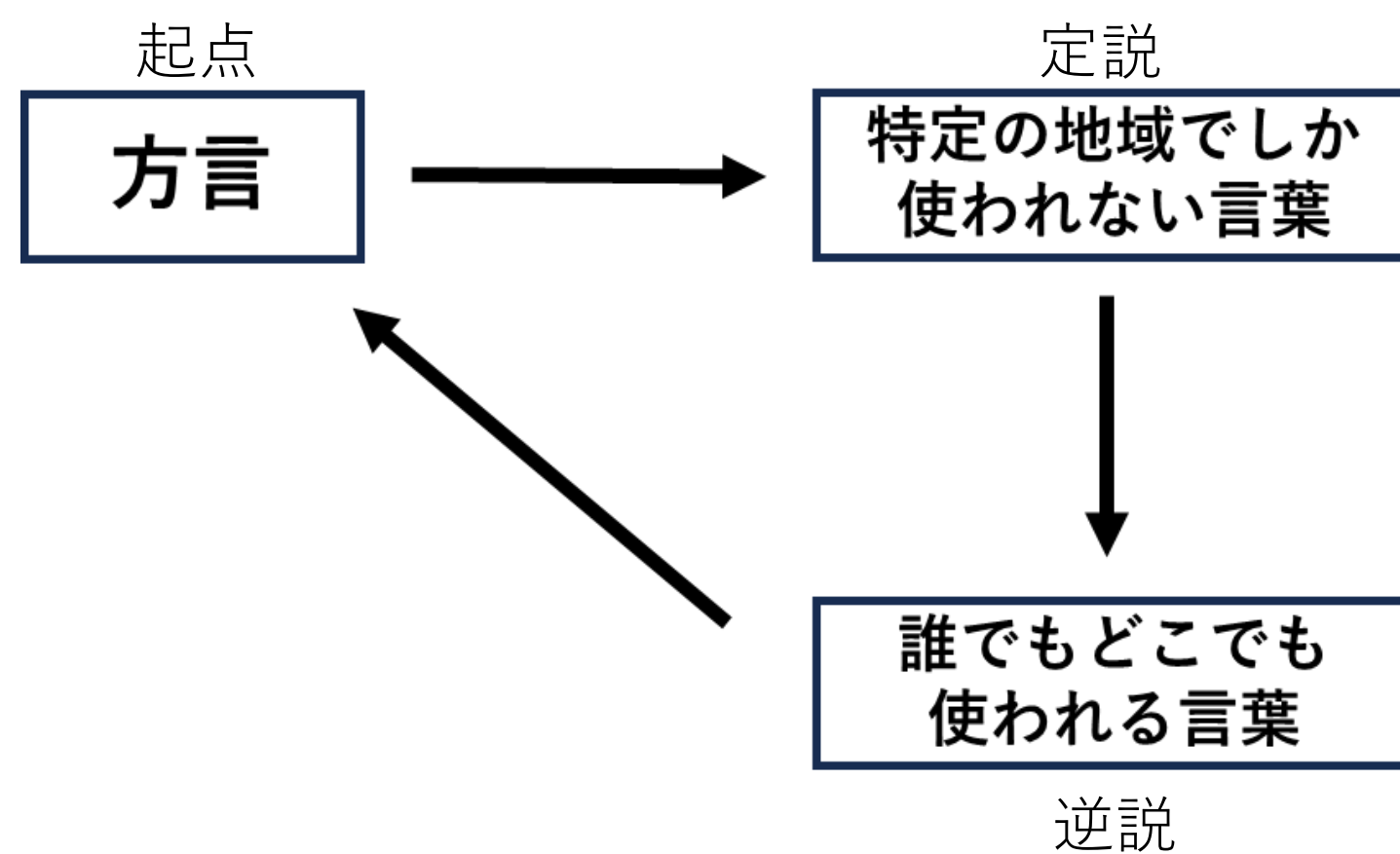
## SOMETAROKAとは

本サービスは方言に焦点を当てた、地方の垣根を越えて方言を体験できる**次世代翻訳SNSサービス**である。翻訳とSNSのチャット機能を組み合わせて、誰でもどこでも方言による会話を可能にする。



## SOMETAROKAのミライ性

現在における方言は使われる地域が限定され、話者もその地域出身や自主的に興味を持ち学習した一部に限られている。本サービスでは方言の逆説を**誰でもどこでも使われる言葉**と捉え、方言の未来の定説を創り出す。



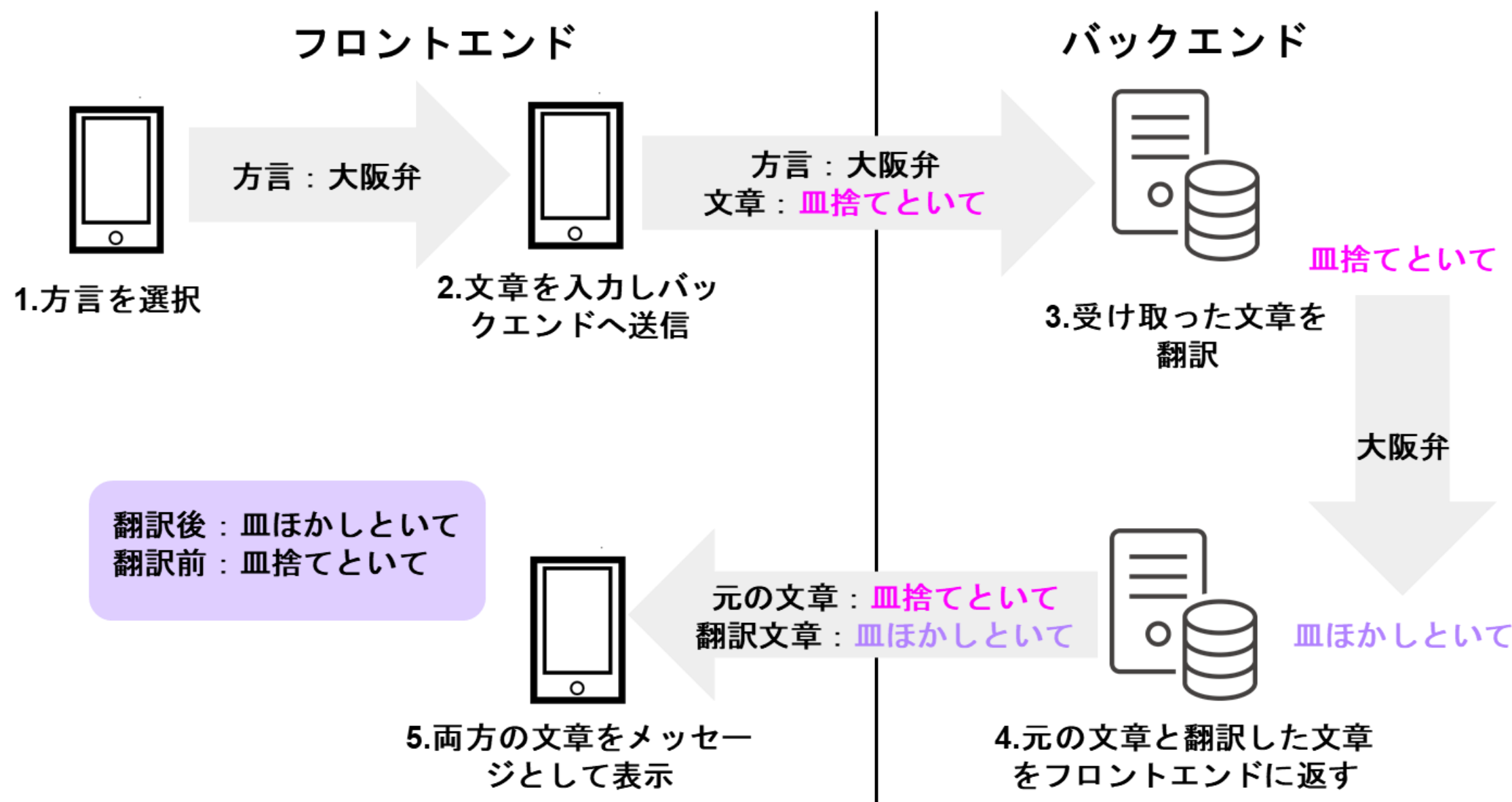
## メイン機能

### ●機能概要

本サービスのメイン機能は**方言の翻訳システムを持ったチャット機能**である。基本的チャット機能に方言翻訳機能を搭載し、送信した文章を翻訳してメッセージに表示し方言での会話を可能とした。

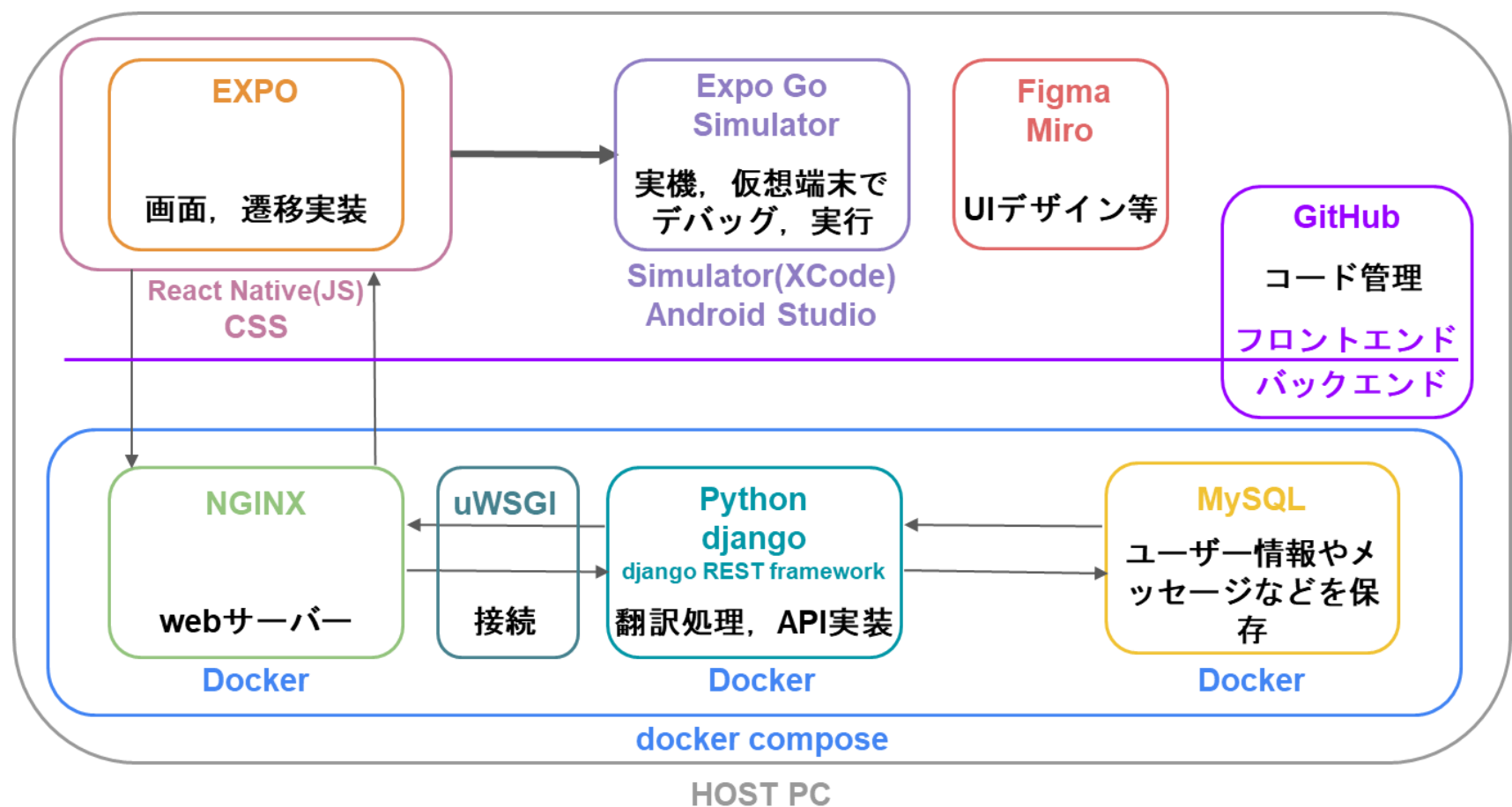
### ●仕組み

ユーザは翻訳したい方言を選択し、文章を入力する。送信ボタンを押すと文章がバックエンドへと送られ、文章を選択された方言に翻訳される。翻訳した後は元の文章と翻訳した文章の両方をフロントエンドへ送り返す。



## 使用技術

本サービスではフロントエンドは**React Native**, バックエンドは**Django**を中心に開発を進めた。他にもコードの管理に**GitHub**, 実機での動作確認に**Expo Go**, 環境構築に**Docker**などの技術を利用している。



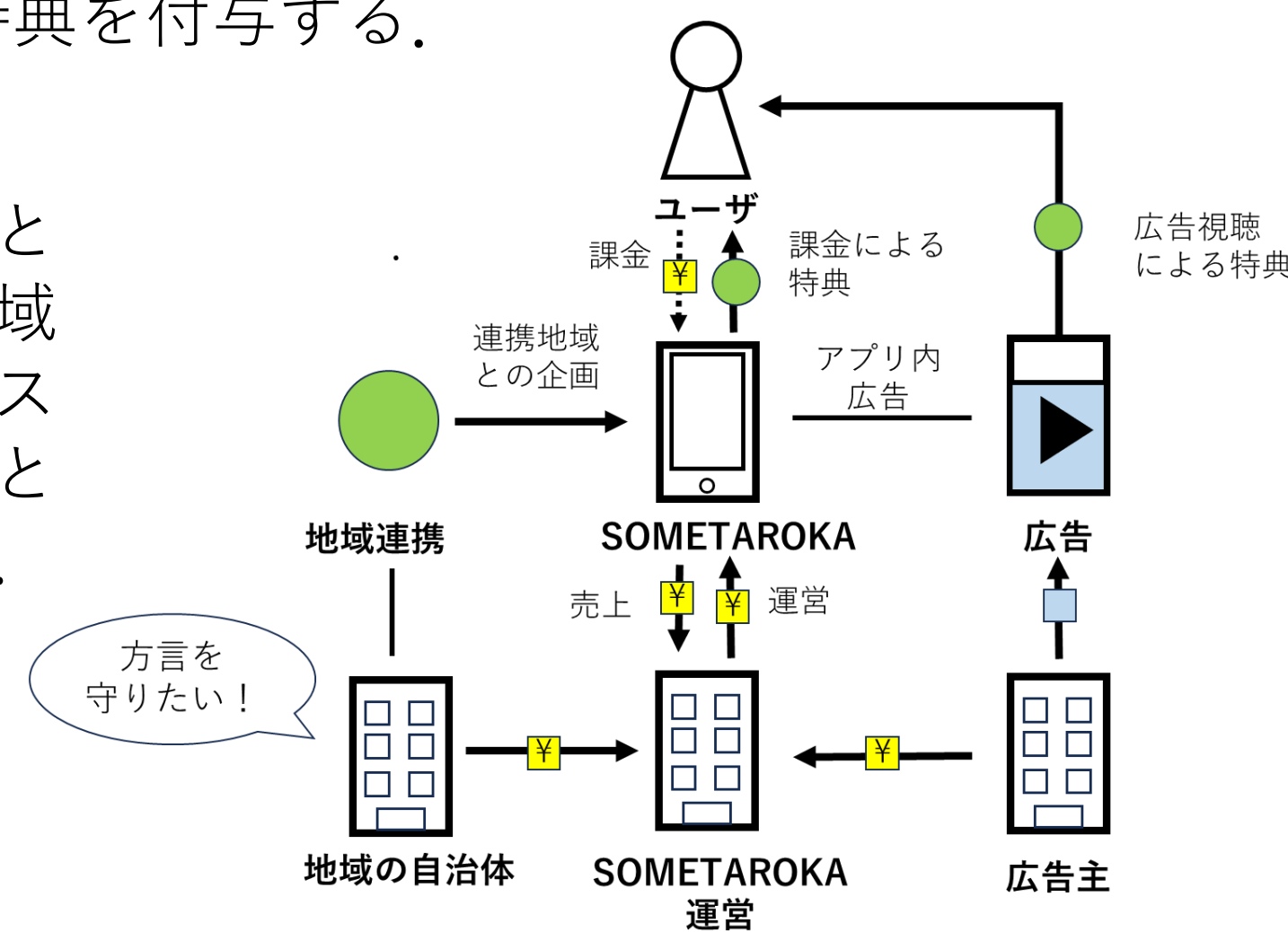
## ビジネスモデル

### 広告モデル

広告を視聴することで、限定的にトーク内でスタンプを利用可能にするといった特典を付与する。

### 地域との連携

「方言を守りたい」という思いをもった地域の自治体と連携し、ステークホルダの拡大と地域の活性化を図る。







# TriCaPic

未来大 : 館山龍之介, 三上拓寛, 石原正翔

神奈工大: 青池大樹, 川口大夢, 武居なつみ

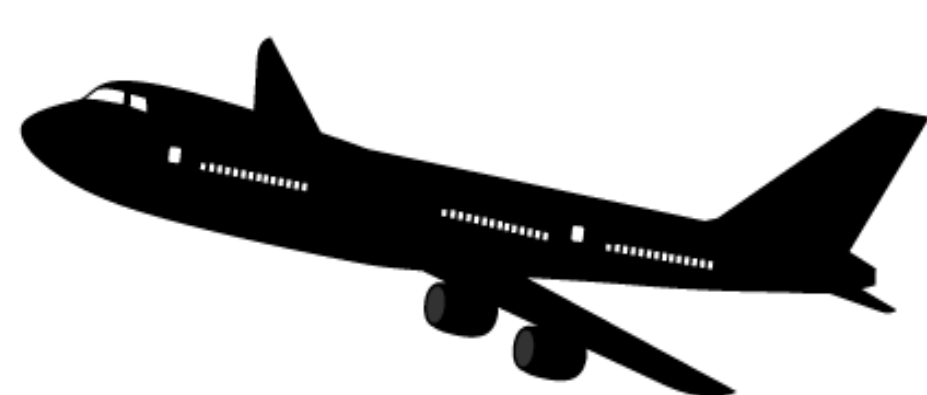
法政大 : 伊藤冨彦, 斎藤尊, 川村優佳

京都橘大: 吉永智哉, 戸嶋海斗, 榊原清士郎

## TriCaPicとは?

### 写真×タイムカプセル

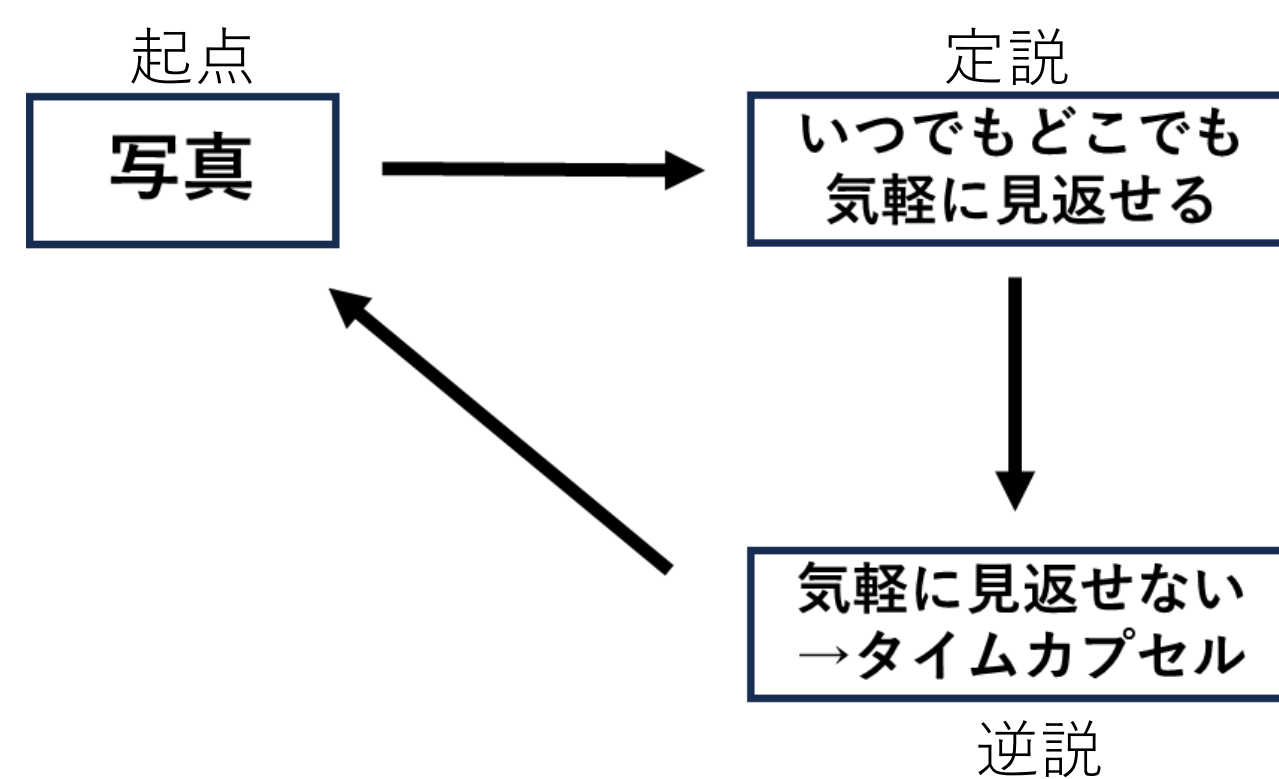
旅に出ても写真を撮るだけでなんだか味気ない. そんなときにTriCaPicを使って旅行の思い出をタイムカプセルに. 本サービスでは, スマートフォン1つでその場にタイムカプセルを埋める, 掘り起こす体験ができる.



## メイン機能

## TriCaPicのミライ性

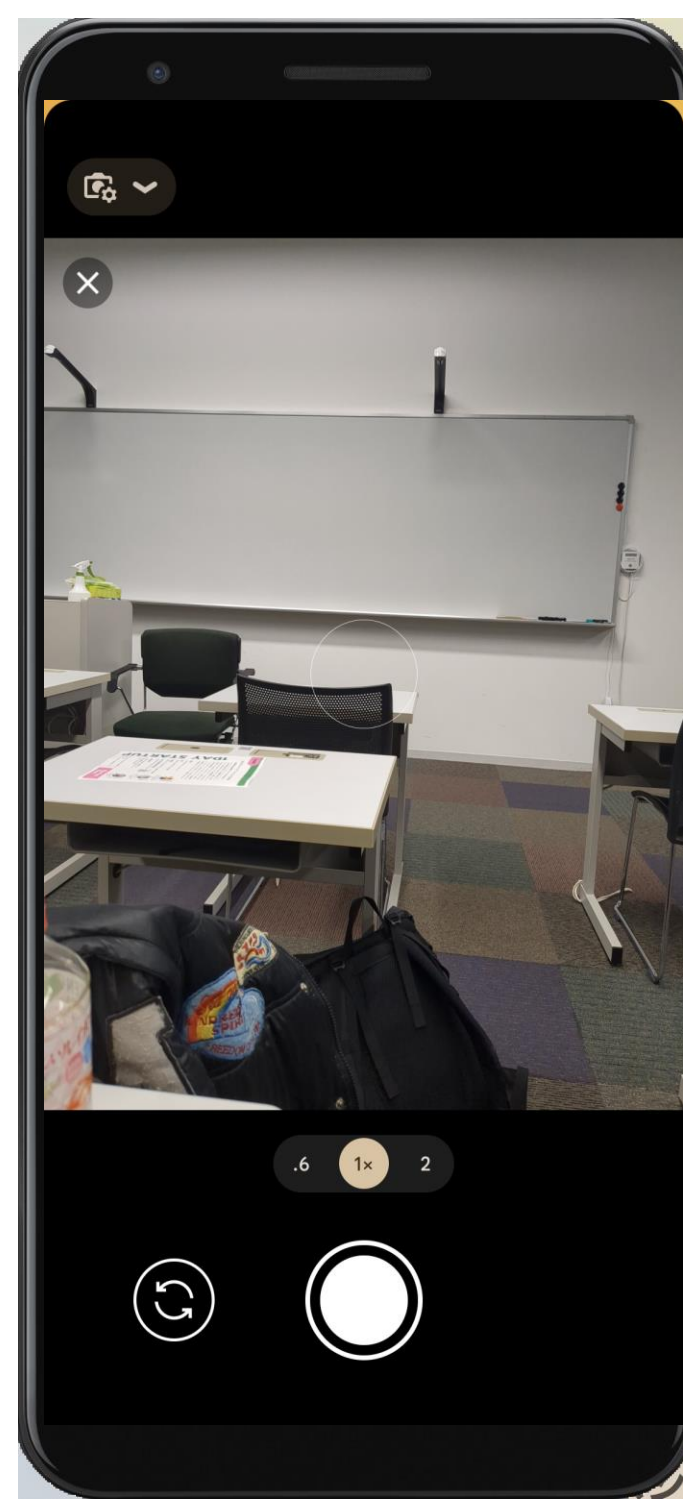
写真はスマートフォン1台で気軽に撮影と閲覧が可能である. しかし, その利便性ゆえに**写真(思い出)の貴重性が低下する**のではないだろうか. そこで, **タイムカプセルのようにその場所に写真を保存し, 掘り起こすことで閲覧可能であるという新たな写真の形態**を提供する.



地図



カプセル閲覧画面



アプリ内カメラ



思い出の保存

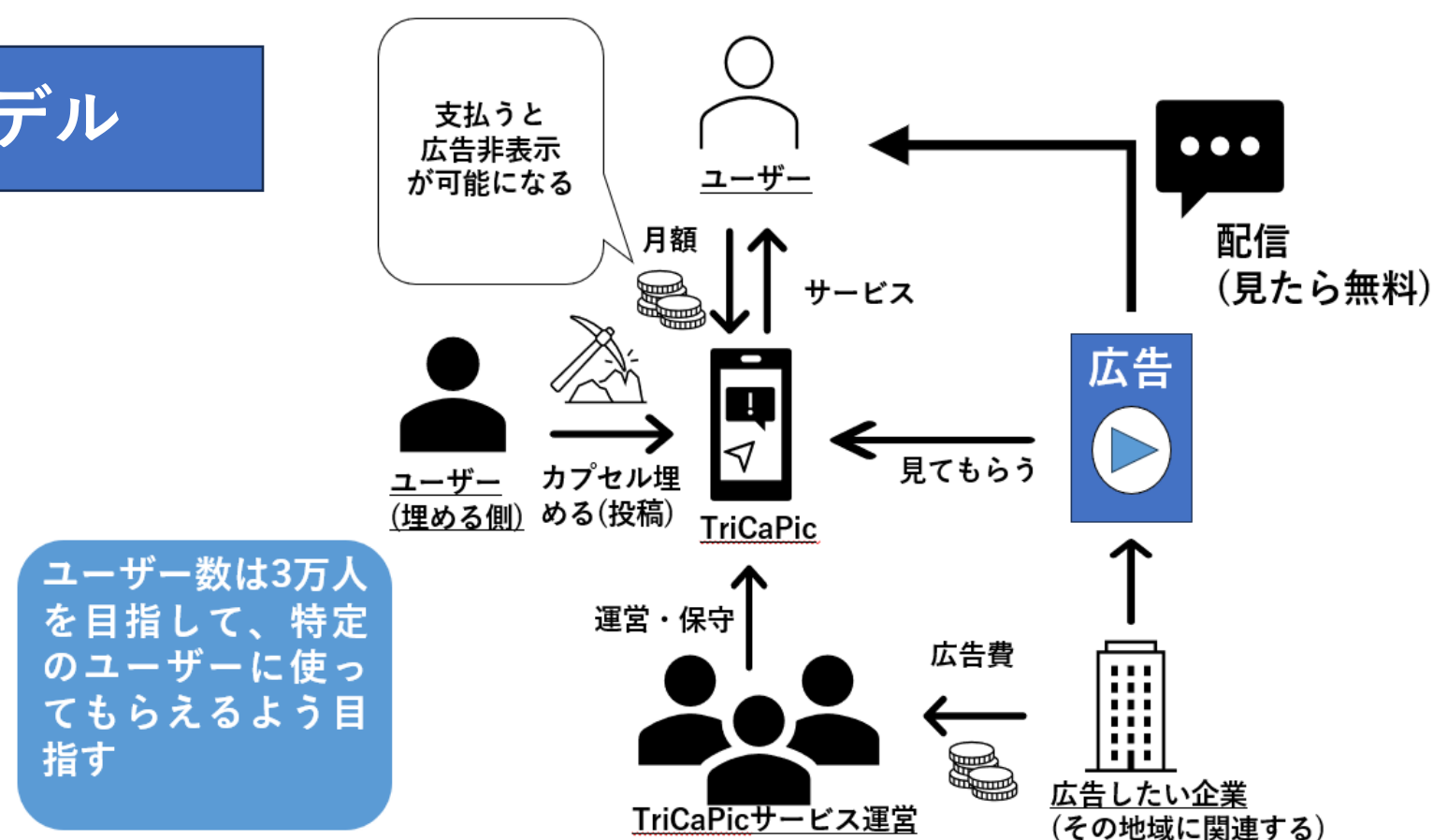
## 利用形態

ユーザーはアプリ内のカメラ機能を用いて撮影を行う. 撮影した写真は日時と位置情報と共にサーバーにカプセルとして保存される. ユーザーは写真を撮った位置から**半径500m以内**まで近づくとカプセルを閲覧することができる.



## ビジネスモデル

### 広告モデル



ユーザー数は3万人を目指して、特定のユーザーに使ってもらえるよう目指す

広告を中心としたビジネスモデルで, 埋めた地域の企業の広告を収入源として, サービスの運営保守を行っていく. カプセルを埋めた地域の企業は認知率が向上し, 地域企業が未来に残る確率を上げることが出来る.





- 未来大 : 菊池克典, 川野順慶
- 神奈工大: 神山修摩, 藤田真永, 藏方聖唯
- 法政大 : 斎藤陽, 室井彪雅, 石川陽
- 京都橘大: 三ツ星航太, 竹内佑奈

## 仮想空間で最高の音楽体験を

## VANDとは

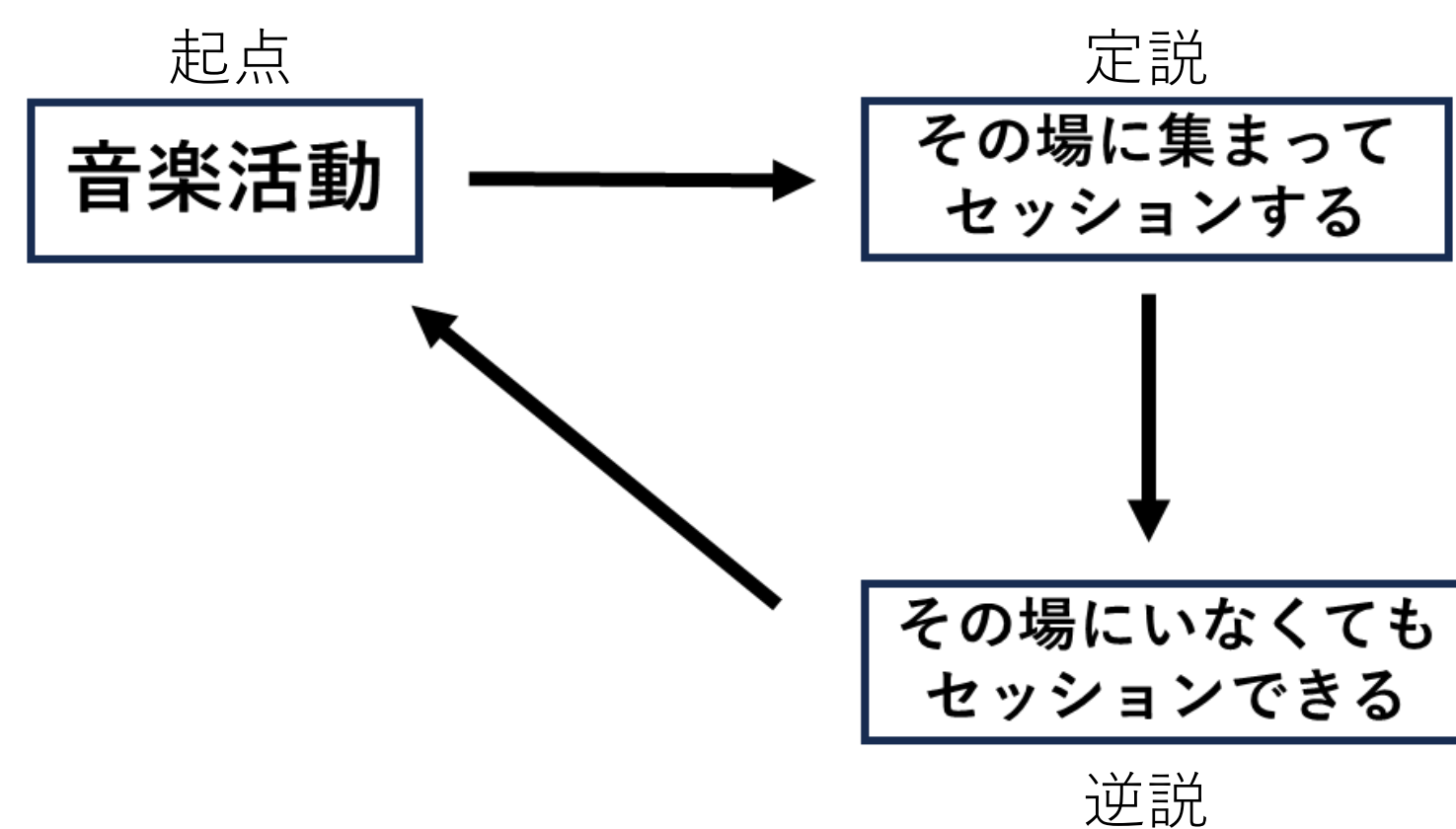
### VR×Band

VANDは、音楽演奏者向けのアバターを利用した**バーチャル音楽コラボアプリ**である。セッションをする相手がいなくても、誰とでも気軽にセッションができるように、**VR空間での疑似的なセッション**を提供する。



## VANDのミライ性

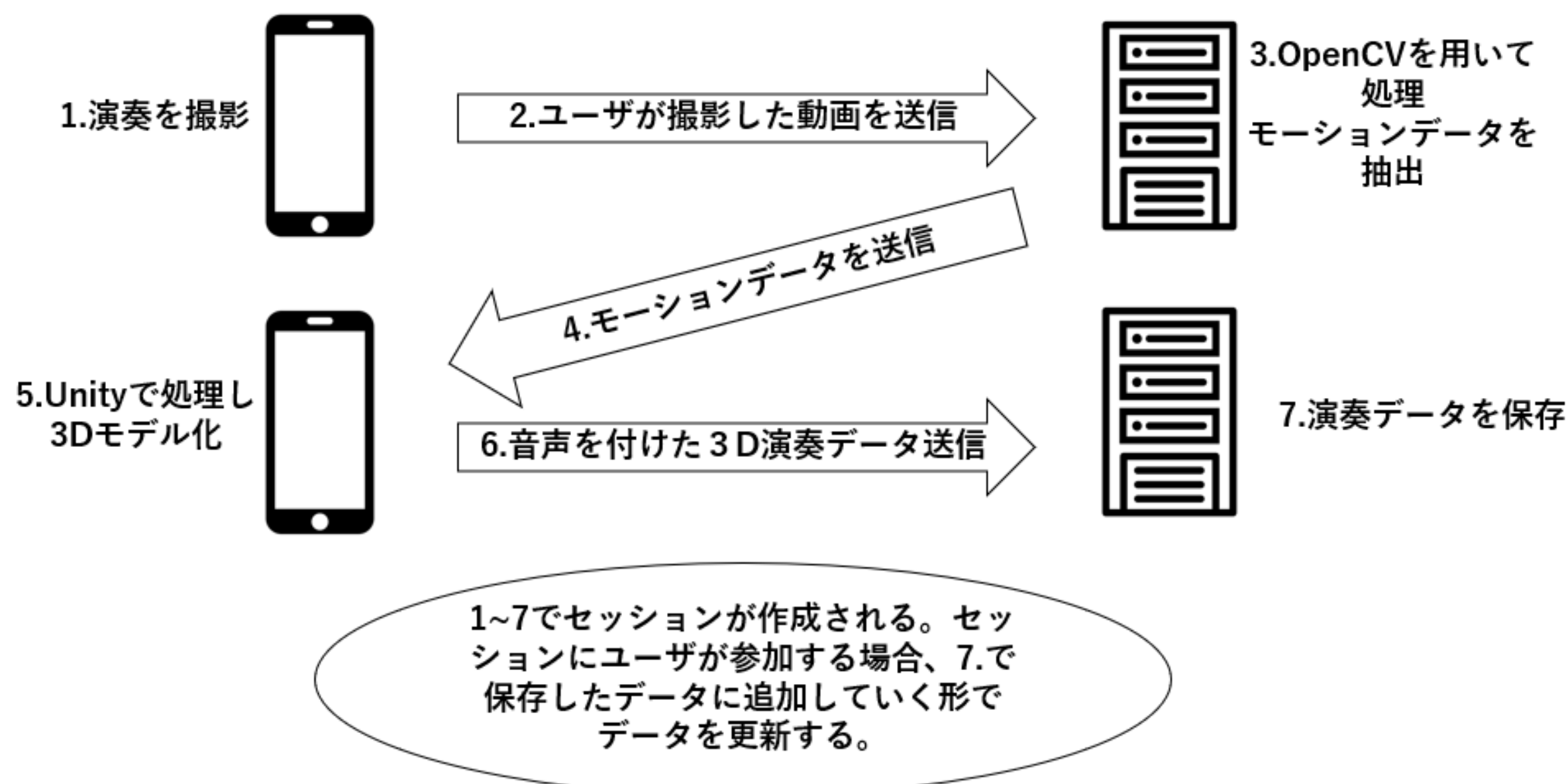
現在における音楽活動は「その場に集まる」、「時間を合わせてオンライン上でセッションを行う」2つが主流である。本サービスではこの逆説を取り、音楽活動であるセッションを**時間、場所に囚われないもの**とすることで、未来の通説を創り出す。



## メイン機能と仕組み

### 疑似セッション機能

- 一人目のユーザがアプリを使って映像を録画
- 映像からユーザの「モーション」をキャプチャし、選択したアバターでユーザのモーションを再現
- 制作したものをアプリ上に投稿
- 二人目のユーザがコラボしたい投稿を選択
- 1, 2を再び実行し選んだ投稿に自分の演奏をミックスすることでセッションが可能に



## ビジネスモデル

### 1. アプリ内広告

動画視聴の始めに、広告を再生させ視聴数に応じて、投稿者に収益を還元する。

### 2. サブスクリプションモデル

Freeプラン, Basicプラン, Premiumプランの3つを用意し、それぞれのプランに応じたサービスを提供する。

プラン	アバター	広告	セッション人数
Free	1人まで	○	4人まで
Basic	3人まで	×	8人まで
Premium	無制限	×	無制限

